令和７年度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト　（ 県立熊谷高等学校　定時制 ）

目指す学校像	社会で「はたらく」生徒を育てる学校

重点目標	
	1　社会で生きる力を身に付ける指導の実践
	2　熊定愛を高める指導の実施
	3　保護者や関係機関と連携した教育活動の実践
	4　安心・安全な熊定づくりの推進

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	
A	ほぼ達成（８割以上）
B	概ね達成（６割以上）
C	変化の兆し（４割以上）
D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者
学校関係者　　４名
生徒　　５名
事務局(教職員)　１０名

学校自己評価							学校関係者評価
年度目標				年度評価（１月２３日 現在）			実施日　令和８年１月３０日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 生徒一人一人の学習到達度を踏まえた指導及び学期ごとの欠点解消補習の実施により欠点保有者が減少している。また、進路決定状況も向上している。 【課題】 「学びの基礎診断」を積極的に活用した学びのサイクル構築及びＩＣＴを有効活用した授業の実践、早い段階における進路意識の向上	○生徒の学習意欲の向上及び基礎学力の定着 ○進路意識の向上	①学びの基礎診断のまとめテストの実施（年間７回） ②教員相互の授業見学の実施 ③欠点保有者数の減少 ①進路面談（年２回）及びハローワークや企業等と連携した進路指導の充実	①「学びの基礎診断」における学習達成率（年間の平均点７０点以上生徒の割合）の増加 ②評価アンケート（授業満足度）の肯定的な評価割合の増加（前年度比＋５％） ③学期ごとの欠点解消補習の実施 ①進路希望調査における未定者の割合の減少	①学習達成率は以下のとおりである。 国語　数学　英語 令和６年度　66.6%　13.3%　46.6% 令和７年度　58.3%　16.7%　41.7% ②生徒対象の授業に関するアンケートの各質問に対し「そう思う、まあそう思う」と回答した生徒の割合は以下のとおりである。 ・授業の内容や先生の話に興味関心が持てる。 85.3%（79.5%） ・授業の内容や先生の話を理解できている。 85.4%（86.4%） ・授業内容を理解できるように努力している。 87.8%（84.1%） ・自ら進んで学習課題に取り組んでいる。 75.6%（65.9%） ③学期ごとの欠点解消補習・追考査により、追考査対象者が減少した。 １学期　９人（６人）、２学期　５人（４人） ①進路決定状況は、以下のとおりである。 進学６　、就職３　進路決定率　100%	A	【成果等】 ・生徒アンケートにおける「生徒の授業満足度」等が、向上した。 ・進路決定率100%を達成できた。 【課題】 ・１年生の基礎学力が定着しきれていない。 ・２学期では欠点保有者は減少しているが、１・２学期ともに欠点を保有する生徒が多い。 【改善策等】 ・学びの基礎診断を活用した個別指導を継続する。 ・学習サポーターを有効活用する。 ・ＩＣＴの有効活用等による授業改善を引き続き図る。 ・欠点解消補習を継続実施するとともに、前の学期に欠点保有となった生徒への注意喚起を継続する。 ・終業式での成績優良者の表彰を継続する。	【意見・要望】 定時制は面倒見が良いと感じている。引き続きよろしくお願いしたい。 【評価】 進路決定率100%達成は素晴らしい。
2	【現状】 ＳＣや社会的養護施設等と連携するなど、きめ細かい指導に取り組んでいる。 【課題】 充実した学校生活の実現（学校行事、部活動の工夫、充実）	○学校行事や部活動の活性化（外部機関との連携）	①ＳＣ等と連携した生徒理解 ②主体的に取り組む学校行事の企画・立案や部活動の活性化 ③面談指導の充実 ④式典や行事等での校歌を歌う機会の確保	①転退学者の減少及び遅刻者の減少 ②学校行事への出席率の増加及び部活動加入率の増加 ③生徒一人一人の実態に応じた面談の実施（必要に応じて家庭訪問） ④校歌が歌える生徒の増加（前年度比＋３０％）	①転退学者　０名（３名） 平均遅刻者数　５．８人／日（７．６人／日） ②学校行事出席率：80.0%（79.9%） 部活動加入率　：48.9%（50.0%） ③１学期に三者面談，２学期に二者面談を実施するとともに、適宜、ＳＣとの面談及びＳＳＷとの連携を図った。 ④校歌を歌えるようになってきた生徒の割合 51.2%（43.2%）	A	【成果等】 ・転退学者数は０であった。 ・校歌が歌える生徒が増加した。 【課題】 ・遅刻が常習化している生徒がいる。 ・部活動加入率が低下傾向である。 ・校歌を歌える生徒の更なる増加に努める。 【改善策等】 ・ＳＣと連携した生徒支援を継続する。 ・学校生活を中心とした生活習慣を確立させる。 ・生徒の希望を活かした部活動の設置や活動を行う。 ・始業式・終業式以外で校歌に接する機会を設定する。 ・終業式での皆勤者の表彰を継続する。	【意見・要望】 ・定時制であっても校歌を歌えることは大事である。しっかり歌えるようになってほしい。 【評価】 特になし
3	【現状】 学校案内等を公表するとともに、学校説明会を実施するなど、本校の魅力や定時制の特色を発信している。 【課題】 保護者や生徒との連絡を確実にするためのメール配信システムの登録者割合のさらなる向上	○効果的な広報活動の実施（定時制の特色のアピール） ○メール配信システム加入率の向上	①ＨＰの更なる充実 ②学校説明会の参加者の増加 ③学校行事、公開授業等、広報活動の充実（保護者等の参加者の増加） ①生徒・保護者へのメール配信システム加入の周知・徹底	①ＨＰの日々更新及び内容の充実等 ②学校説明会の参加者数及び学検志願者数の増加 ③学校行事、公開授業、給食試食会等への保護者等の参加率の増加 ①メール配信システムの加入率の向上（昨年度比＋１０％）	①給食ブログや行事報告等の更新回数の向上 ②Ｒ７入学説明会希望者：９組（12組） 入学希望者数（12月）：８人（９人） ③彩の国教育週間の参加率 32.6%（14.0%） ①くまてい安心メール保護者登録率 69.6%（79.1%）	B	【成果等】 ・給食ブログは毎日更新、行事報告等37回（昨年同期36回）1／16現在 ・彩の国教育週間を中心に保護者等の来校者数が増加した。 【課題】 ・安心メールの登録率が伸び悩んでいる。 【改善策等】 ・行事とともに授業風景もあわせてＨＰでの積極的な発信を行う。 ・くまてい安心メールへの更なる登録支援を行う。	【意見・要望】 安心メールを通して、学校の様子や保護者が知りたい情報などをもっと発信すると登録率が上昇すると考える。 【評価】 特になし
4	【現状】 施設・設備の安全維持に努めるとともに、自校給食実施校として衛生面での安全・安心の確保に努めている。 【課題】 登下校時の事故防止（自転車運転マナーの向上、交通安全指導の充実）及び給食喫食率の向上	○施設・設備、給食点検の実施及び定期的な交通安全指導の実施 ○給食喫食率の向上	①巡回による日常的な設備点検の実施 ②給食点検、検食の確実な実施 ③自転車、自動二輪車、自動車使用者へのルールの徹底 ①給食室の席の自由化、リクエスト給食・セレクト給食の実施 ②栄養教諭による給食指導の実施	①ＨＲ教室や使用教室の安全点検の実施及び速やかな修繕 ②安全に配慮した給食の提供 ③登下校時の交通事故件数０の継続 ①、②給食を食べる生徒数の増加	①日常的な施設・設備点検、各学期の安全点検を実施した。清掃活動が習慣化した。 ②今年度も、給食関係の事故０件を達成した。 ③登下校時の交通事故被害の報告があった。 自転車ヘルメット着用率 12.2%（15.9%） ①、②喫食率が、約78%（約79%）だった。 ①、②栄養教諭と連携した教科（科目保健、フードデザイン）指導を実施した。	B	【成果等】 ・日常的、定期的な点検により、安心して学べる環境整備を行った。 【課題】 ・喫食率が伸び悩んでいる。 ・自転車運転マナー、自転車ヘルメット着用への意識高揚が必要である。 【改善策等】 ・食生活指導、給食において生徒が考案したメニューを提供するなどを継続して実施する。 ・自転車ヘルメット着用指導を継続するとともに、様々な機会を通じて自転車運転マナーの意識向上に努める。	【意見・要望】 自転車運転マナー等については、改正道路交通法により法律的にも違反となるので指導をしっかりとしていく必要がある。 【評価】 給食に関しては、ブログ等も充実している。引き続きおいしい給食を継続してほしい。